

7月10日の降雹・強風等に対する農作物技術対策

令和5(2023)年7月11日

安足農業振興事務所

1 果樹共通

(1) 施設等の修繕

- ・平棚や網棚等の施設、多目的防災網等の破損がある場合、早急に修繕する。

(2) 苗木等の管理

- ・突風により苗木等が倒伏した場合は、直ちに起こして誘引し直す。

2 もも

(1) 病害防除等の徹底

- ・葉や果実等が損傷した場合は、速やかに殺菌剤を散布し主要病害の発生予防に努める。
- ・突風で主枝等が折損した場合は、添え竹や誘引にて枝を引き起こし、傷口に癒合剤を塗布する。

(2) 選果選別等の徹底

- ・収穫期の果実は、傷や腐敗が混入しないよう選果選別を徹底する。
- ・落果した果実は、ほ場にそのまま放置せず、すき込むか園外へ持ち出し適切に処分する。

3 なし

(1) 病害防除の徹底

- ・葉や果実等が損傷した場合は、速やかに殺菌剤を散布し主要病害の発生予防に努める。

(2) 摘果作業

- ・補正摘果では、重症果から摘果し、軽症な果実は回復状況を見ながら間引いていく。
- ・収穫期に近い早生品種は、果実の損傷に伴って腐敗しやすいので早めに摘果する。なお、一度に摘果すると、品種によっては裂果を助長することがあるので注意する。
- ・葉の損傷がひどく樹勢の低下が懸念される場合は、摘果で着果数を制限し、樹勢の維持を図る。

4 ぶどう

(1) 被害状況の確認

- ・降ひょうのあったほ場は、除袋して被害の状況を良く確認する。
- ・突風により新梢やカサが外れた場合は、新梢誘引やカサかけを見直す。

(2) 病害防除の徹底

- ・葉や新梢が損傷した場合は、速やかに殺菌剤を散布し、主要病害の発生予防に努める。また、袋かけが完了していないほ場は、薬液の付着汚れの少ない薬剤を選ぶ。

(3) 摘粒作業

- ・被害の少ないほ場では、傷や打撲した果粒を除去し、袋かけを行う。
- ・果粒軟化期以降の被害果房は、腐敗しやすいため、こまめに巡回して腐敗した果粒を取り除く。

(4) 新梢管理

- ・葉や新梢の損傷がひどい場合は、副梢の多発が懸念されるため、摘心などの新梢管理を徹底する。なお、新梢の切り戻しなどの枝の整理は、副梢の発生を助長するので控える。

(5) 着果管理

- ・葉の損傷がひどい場合は、被害のひどい果房から摘房するなど、必要に応じて着房数を見直し、樹勢維持を図る。

4 夏秋なす

(1) 草姿管理

- ・折れた茎葉は摘除し、側枝の発生を促す。伸ばす枝をしっかりとマイカー線に固定する。

(2) 着果管理

- ・傷ついた果実は摘果し、草勢の回復を促す。

(3) 肥培管理

- ・草勢の回復を図るため、窒素入りの葉面散布剤を散布する。また、必要により10 a 当たり窒素、加里を成分で各 3～4kg 追肥する。

(4) 病害防除の徹底

- ・褐色腐敗病等の病害の発生が懸念されるため、予防的に登録のある殺菌剤を散布する。

(5) ほ場の修繕等

- ・防風ネットの修繕、補強を行う。

5 ねぎ

(1) 肥培管理

- ・草勢の回復を図るため、窒素入りの葉面散布剤を散布する。また、必要により10 a 当たり窒素、加里を成分で各 3～4 kg 追肥する。

(2) 病害防除の徹底

- ・病害の発生が懸念されるため、予防的に登録のある殺菌剤を散布する。

6 大豆

(1) 排水対策

- ・排水溝を整備する等、排水対策を徹底する。

(2) 播き直し

- ・播種直後の冠水などにより、出芽不良が予想される場合は、早めに播き直しを検討する。